

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 コロロ松山教室		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 20日		～ 2025年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	13
○従業者評価実施期間	2025年 10月 20日		～ 2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自閉症、発達障がいに対する専門性が高いこと。	法人独自のメソッドがあり、スタッフが共通認識をもって療育にあたることができている。社内研修や事例研究の機会が多く、入社後に継続して研鑽を積むことができる。	知識や経験年数のあるスタッフによる巡回指導で現場でのOJTを充実させていく
2	法人内で幼児期から晩年の看取りのところまで、幅広い年代に対応しているため、ライフステージごとに直面する課題を把握し、予防的措置を講じることができること。	グループ合同の事例発表会や交換研修など通じて情報交換を行っている。	法人内外の交換研修を活発に行い、各スタッフがより多くの症例にあたるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのつながりが弱いこと。	療育を目的として通室している利用者が多いため、事業所としては地域交流に対するニーズがないという認識でいる。	療育の一環として、地域の方とあいさつを交わす、交通ルールやマナーを守り地域の中で受け入れられる子供たちにしていくことを目指して参ります。
2	教室設備や療育場面の見学の場面が少なく保護者に分かりにくさを感じさせていること。	行事の際には保護者参観をさせていただいており、面談やペアレントトレーニング、見学は随時行っているものの、そのことが周知されていない可能性がある。	教室見学、行事参加へのお声かけと説明を今以上に積極的に行っていく。お子さんの活動の様子を録画して面談時にご覧いただく等、機会を増やす工夫していく。